

a 学校教育目標	「自ら伸びる とともに伸びる 子どもの育成」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 【ビジョン】(自校の将来像)	自分を愛し、夢を語る児童の育成 小中一貫教育で、15の春に【幸崎思考力】を発揮し自律的に学ぶ子どもを育成する学校。そして、保護者・地域に信頼される学校。
----------	------------------------	----------------------	----------------------------------	---

評価計画					自己評価					改善方策		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g目標値	10月	2月	達成度	評価	k結果と課題の分析	n改善方策	l 評価			mコメント	
					h達成値	h達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	○【幸崎思考力】を発揮し自律的に学ぶ子どもの育成【NRT偏差値平均 55以上】	◎幸崎思考力を育む授業改善による、学力の向上 【学期末テスト学年平均85点以上】	【授業改善】 ①児童が自分の考えを発表できる親和性の高い学習集団づくり ②ファシリテーター力の向上に向けた教職員研修 ③学んだことを接続詞を用いて80字以内で書くR80の充実 ④STB(幸崎トレジャーBOX)獲得した知識)を掲示したり、自分に合った思考の仕方を選択できる学習環境	単元末テスト	平均得点率85%以上	86%	85.5%	100	A	2学期単元末テスト結果 国語科88点、算数科83点 「学習集団アンケート(1月)」 肯定的回答89.5% 〈成果〉 R80の取組みにより、論理的にまとめる力が向上 〈課題〉 児童が問いをもち、主体的に学ぶ授業づくり 児童の思考を大切にしたいファシリテーター力のさらなる向上	【授業改善】 ①全職員が授業研究での学びを生かす ②めあてとまとめの整合性 ③R80による児童のさらなる論理力向上 ④獲得させたい知識を明確にしたSTB(幸崎トレジャーBOX)を児童が活用	○			自分達が子供の頃と違って、少人数になって先生の目が児童に向いていると思った。 取り残されている児童もおらず、良い学校ではないかと思う。 低学年にはじっくり時間をかけ、高学年には自分達で考えさせるグループディスカッションを取り入れられ、授業に活気があった。
		○ICTの活用【プレゼン能力の向上・タイピング検定・情報モラル教育】	【個別指導の充実】 ①全学級で支援が必要な児童に、複数対応による補充学習(支援が必要な児童には四則計算の徹底を重視) ②思考・判断・表現力向上に向けて、幸崎検定テストを実施 ③認知機能強化トレーニング(コグトレ)	児童アンケート	肯定的評価80%以上	85%	89.5%	111	モジュールタイムにおいて、活用型問題の実施 個別の支援が必要な児童の実態を把握 〈成果〉 1学期単元末テスト60%以下の児童に対する個別指導・きめ細やかな支援の継続 コグトレタイムによる認知機能の向上 〈課題〉 活用問題の思考・判断・表現力のさらなる向上 児童に確実に取り組ませ、定着を図る	【モジュールタイムの充実】 ①組織的な個別支援の継続 ②活用型プリントの確実な実施と定着 ③コグトレタイムの継続	○				
			【ルールを守り活用できる児童】 ①育成すべき能力を発達段階に応じて具体的な子どもの姿で設定 ②タイピング練習で情報活用能力の基礎力の向上 ③情報モラル教育の充実	マイプレゼンの実施	年3回以上	100%	100%	100	A	全学級3回以上Canvaやスライド等のプレゼンテーションソフトを使った発表を実施 〈成果〉 情報モラル教育の実施(出前授業で講師が来校) ICTの活用場面の増加(全学級、タイピングの実施回数が増加した。) 〈課題〉 ドリルパークの活用等、教職員が活用しきれていない。	【ICT活用能力の向上】 ①タイピング練習の継続 ②情報モラル教育の実施 ③研修による教職員のICTの効果的な活用場面の模索	○			
豊かな心	○親和性の高い集団づくり 【HyperQU・全児童学級生活満足群へ】	○目標に向けて、仲間と共に考動・協働できる子どもを育てる。 【HyperQU・全児童学級生活満足群へ】	【PDCAサイクルと振り返り】 ①学級チャレンジ……学級目標の設定と評価活動、学級チャレンジと行事を関連付け ③共感的な学び合いを実践し、認め合い感謝する仲間づくり ④特別支援の視点を経営に取り入れ、個に応じた指導を充実	HyperQU・学級生活満足群到達度	HyperQU・学級生活満足群到達度80%以上	65.8%	62.3%	78	B	ハイパーQUによる、親和性を図る項目についての達成率 全校平均 62.3% 児童アンケートによる肯定的評価 低学年100% 高学年98.5% 〈成果〉 幸崎っ子10の姿と学級チャレンジをリンクさせた各学年の目標設定による集団意識の醸成 児童自らが企画・運営して主体的に取り組んだ縦割り班活動 異学年で交流する取組において親和的な関係性の育成 〈課題〉 HyperQU・学級生活満足群到達度が低い 特定の課題がある児童の実態に基づいた課題克服に向けての取組 肯定感をもてるよう取り組んでいくとともに、学級集団作りにも生かしていく。	【学級経営の充実】 ①帰属意識を醸成する取組のさらなる推進 ②集団意識を高める特別活動の充実 ③役割分担を明確にした縦割り班活動	○			どのクラスにも自分の目標や学級目標などが掲示されていてよかった。目的意識をもって活動できていると思う。
		◎縦割り班・異学年を軸とした自治的な学び【自己評価…児童】	【縦割り班・異学年活動】 ①幸崎っ子10の姿の共有化 ②幸崎スポーツフェスティバル・幸崎文化フェスティバル ③児童会や委員会、縦割り班等の自治活動の充実 (縦割り班)縦割り班遠足・清掃(児童会運営)全校朝会、一斉下校(委員会)縦割りフェスの実施	児童アンケート	児童の肯定的評価80%以上	95%	99.2%	128				○			
健やかな体	○運動に対する意欲の向上 【個人記録の結果が全員UPする】	○楽しみながら体を動かすことで体力を向上させる。 【個人記録の結果が90%UP】	【運動に対する児童の意欲向上】 ①縦割り班を生かしたスポーツフェスティバルやリレーの実施 ②外遊びWEEK等の取組 ③視覚的に自分の目標やゴールが見えるカードの作成と評価	個人記録の結果	個別の向上率90%以上	-	76.0%	84	B	重点課題に対応した改善する取組内容及び方法を明確にし、運動能力の向上を図った。 〈成果〉 長座体前屈の向上率112%、反復横跳びの向上率108% 体力ファイルの作成 体育授業の充実(運動感覚を効果的に高めるための研修の実施) 小中連携授業及びICTの効果的な活用 〈課題〉 重点課題以外の体力テストの向上 運動する児童としない児童の二極化	【1年間通しての計画的な体力の向上】 ①月毎に重点課題を決め、大休憩に業間運動を行う。 ②運動効果を高めるための定期的な研修の実施	○			数字で表すより、いかに伸び伸びと充実感を持って活動できるかだと思う。
	○コミュニティースクール・小中一貫による教育活動の充実を図り、郷土を愛する心を養う。 【コミュニティースクール】 【小中一貫教育】	○幸崎の強みを生かした探究的な学習を展開し、自分や友達、郷土を愛する心を養う。 【自己評価…児童】 【アンケート評価…保護者】	【創立150周年に向けてコミュニティスクールを活用し教育力向上】 ①学校の教育活動を、地域と共に企画・実行することで、地域の方や地域の事に関わる機会(150周年フェスの成功) ②地域への感謝の気持ちを視覚化・伝えることの大切さを実感 ③総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメント(地域資源のよりよい活用方法・地域学習の充実)	児童アンケート	自分や友達、学校や地域に対する愛着に関するアンケート項目の肯定的評価80%以上	95%	96.0%	120	A	創立150周年に向け、CSを活用した教育力の向上 地域資源を活用した地域学習で学んだことの発表による地域とつながる文化フェスティバルの実施 〈成果〉 地域と学校が一緒になった教育活動の評価・改善 「幸崎小150のメッセージ」の取組のお披露目 感謝の手紙で、気持ちを視覚化 児童は伝統や文化、自然環境、地域の人々の優しさなどについて良さを実感 〈課題〉 地域学習を通じて、より実生活や未来に役立つ力を育てる。	【地域学習のさらなる充実と郷土愛の醸成】 ①地域学習と他教科の関連性を深め、学びをさらに充実させるためのカリキュラムマネジメント ②お世話になった地域の方への感謝を伝える活動	○			
	○チーム幸崎として、業務改善を図る。 【時間外勤務時間目標総時数 達成率100%】	○在校時間を短縮する。 【時間外勤務時間目標総時数 達成率100%(平均値45時間)】	【適材適所の人材配置による業務改善】 ①個性を発揮できる職務に就くことで、一人一人のモチベーションを高め、業務を効率化 ②建設的な雰囲気を醸成しチーム力の向上 ③一人一人が生きて働くことができる組織へとさらに成長	時間外勤務時間数	年間平均45時間以内の職員100%	100%	100%	100	A	時間外勤務時間数が45時間以内の職員 100% 〈成果〉 定時退校日の設定 各部やベア学年での情報の共有 週黒板による日程の確認・共有 〈課題〉 在校時間について個人差がみられる。 ICTを活用した業務の効率化	【来年度に向けた業務改善】 ①各主任を中心とした部の計画的な運営 ②情報の共有化と周知徹底 ③ICTを活用した業務の効率化 ④日課表の見直しによる在校時間の短縮	○			

本年度の重点目標については◎印で示す。

PA-SENNTO

【I: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。
ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。